

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

E-mail:[aotokouhou@jikei.ac.jp](mailto:aotokouhou@jikei.ac.jp)

## INDEX

01. 着任のご挨拶
02. IBDチームの紹介と院内の取り組み
03. 季節の行事～院内レクリエーションの紹介～
04. 東京消防庁より感謝状が贈呈されました、  
救急医療功労者表彰を実施しました、編集後記



## 着任のご挨拶

7月より鈴木貴整形外科診療部長代行の後任として着任いたしました。最近6年間は新橋の附属病院で診療していましたが、その前の7年間は当センターで診療部長として勤務しておりました。建物は最新の設備を備える新病院となりましたが、私にとってはなじみ深い葛飾です。整形外科では、大学病院として地域に貢献できるように、「脊椎外科」と、私の専門領域である「足の外科」の専門外来を設け、新たにスタートを切りました。足の疾患を専門的に診療する医療機関は限られておりますが、当科では小児から成人まで広く対応が可能で、義肢装具士も待機しており、装具や靴による治療も迅速に対応できます。

また地域の基幹病院として、入院や手術を必要とする外傷の迅速な対応を心がけております。診断・治療方針の定まった患者さん、術後のリハビリなどは、地元の医院・病院で治療できるように積極的に紹介しており、今後そうした連携をますます深めていきたいと考えております。今後ともご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



診療部長 窪田 誠



## IBDチームの紹介と院内の取り組み

IBD(=炎症性腸疾患)とは主として消化管に炎症を起こし、再燃と寛解を繰り返す慢性疾患の総称で、潰瘍性大腸炎やクローン病が代表的な疾患です。はっきりとした原因は特定されておらず、根治的な治療は確立されていません。

症状は頻回の下痢・腹痛・血便・発熱・体重減少などで患者さんのQOL(生活の質)に大きく影響します。発症年齢も10~20代と若者に多く、病気を抱えながら進学・就職・結婚・出産など人生の大切なイベントを乗り越えなくてはなりません。

そのため早期診断・早期治療による寛解導入と長期の寛解維持による患者さんのQOLの向上が治療の目標となります。

薬物療法や栄養療法を中心に現在では生物学的製剤(レミケード・ヒュミラ)や白血球除去療法(LCAP)、顆粒球吸着療法(GCAP)など治療の幅が広がっています。

当センターでは約10年前より毎週土曜日にIBD専門外来を設けており、患者さんがより良い生活を送れるよう支援するため、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・医療ソーシャルワーカーが団結し、IBDチームを結成しています。IBDチームでは勉強会を通しIBDについての知識を深め、またカンファレンス(月1回)やランチミーティング(月2回)で患者さんの病態や治療について話し合い、チーム間で連携を取りながらそれぞれの職種で患者さんのサポートに携わっています。

また当センター通院中の患者さんを対象とした患者会を開催し、患者・家族・医療スタッフとの交流を図り、疾患や治療による不安の軽減や患者さんのセルフケア力の向上に努めています。

患者さんが病気をかかえながらも毎日の生活を楽しく送れるように、また人生の大事なイベントをしっかりと乗り越えられるようにチーム一丸となってサポートしていきたいと思います。不安なことがあればどうぞお気軽にお声かけください。(看護部)

### 患者会のお知らせ

『大災害!?  
あなたならどうする??』

日時 2013年10月12日(土)  
14:00~

場所 慈恵医大葛飾医療センター  
5階 講堂A

※参加ご希望の方は、外来Cブロック  
スタッフまでご連絡ください

※当院通院中の患者様に限らせて頂きます





## 季節の行事 ～院内レクリエーションの紹介～

当センターでは、単調な入院生活、辛い治療の間にも、患者さんに季節感を味わって頂きながら、ほっと出来る時間を提供したいと思ひ様々な趣向を考えて季節の行事を行っています。

7月には1階フロアと病棟の各階のデイルームに笹を設置し、多くの患者さんに短冊に願い事を書いて頂き、飾っています。(その後は、きちんと願い事を届けにいきます。)

年末にむけた行事として、10月のハロウィーンがあります。各病棟ナースステーションのカウンターに趣向を凝らして飾りつけしています。また、12月のクリスマスでは、院内の多くの職種の参加を得て、讃美歌の歌声と共にサンタクロースに扮した職員が患者さん一人一人にメッセージカードを手渡しています。

これらの行事は、患者さんからも好評をえています。同時にスタッフも一緒に楽しんでいます。ぜひこれらの行事に出会ったときは束の間の休息を病院の中でもお楽しみください。(看護部)



クリスマス献立と  
小児科のおやつ





## 東京消防庁より感謝状が贈呈されました

平成25年9月9日(月)、東京消防庁より、救急業務の充実発展への貢献が認められ、葛飾医療センターへ感謝状が贈呈されました。

9月9日は9(きゅう)と9(きゅう)で「救急の日」と定められており、この日を含む1週間を「救急医療週間」として全国各地において応急手当の講習会を中心とした救急に関する様々な行事が実施されました。

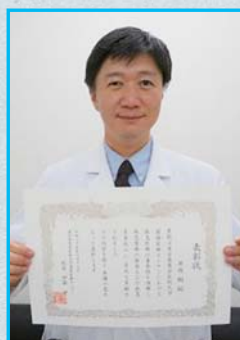
当センターは総合診療体制・救急医療体制を強化し、地域密着型病院を目指す病院としてさらなる地域の医療水準向上に貢献致します。(事務部)



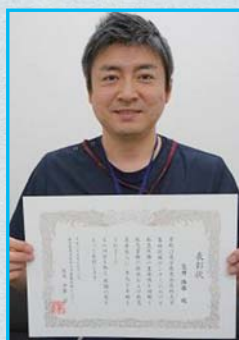
## 救急医療功労者表彰を実施しました

当医療センターでは、救急医療業務の重要性を理解し、救急業務の推進および救急患者受入に貢献した医師を対象に表彰を行いました。

今後も、断らない救急・医療の原点を見つめる病院として、地域の皆様に貢献してまいります。



総合内科 井坂 剛



脳神経外科 荒井 隆雄



総合内科 海老澤 高憲



神経内科 大本 周作



腎臓・  
高血圧内科 清水 昭博



呼吸器内科 市川 晶博

## 編集後記

猛暑の夏もようやく終わり、秋の気配が近づいてまいりました。

葛飾医療センターでは、開院当初からポリシーである「断らない救急」を実践してまいりました。

このたび、東京都消防庁より救急医療表彰を受け、今後とも二次救急医療を必要とする地域の皆さんへ、目の前で病に苦しんでいる患者さんにいち早く手を差伸べるという医療の原点に立ち返り、患者さん中心の救急医療を実践していく所存です。